



辰巳小だより

江東区立辰巳小学校
校長 松下 由美子
学校だより 第10号
令和6年2月1日

(ホームページアドレス) <http://tatsumi-sho.koto.ed.jp>



学校公開の参観 ありがとうございました。

副校長 檜本 泉

暦の上では間もなく春となりますが、毎日寒い日が続きます。大寒の1月20日土曜日、本校で学校公開を実施しました。多くの保護者の皆様にご参観いただきまして、ありがとうございました。当日は様々な学年で、「総合的な学習の時間」のまとめや発表の授業がありました。

4年生は環境問題について「地球SOS会議」を実施しました。Aさんは、「江東区の埋め立て地があと50年しかもたない」ということに危機感を覚え、「ゴミを減らすため、紙ストローやエコバッグを使おう」と呼びかけました。Bさんは、電気が発電されるとき二酸化炭素が出ることに着目し、「節電のため、テレビをつけっぱなしにしない」と決心しました。

5年生のテーマはSDG'sです。各自が調べたことについて、発表会を行いました。Gさんは、アフガニスタン等の紛争について調べ、募金をしました。「紛争が起こる原因は、自分の欲が人を思いやる心よりも勝ってしまうから」と考え、居ても立ってもいられず、1年生に自主的に伝えに行く、という活動をしました。Dさんは、アジア・アフリカの貧困について調べ、「フェアトレード商品のチョコレートを購入した」と報告しました。Eさんは、海の自然や資源について調べ、「プラスチックゴミを減らすため、ペットボトルを貯金箱に再生し利用している」と発表しました。

6年生総合のテーマは「世界を知ろう」です。自分が興味をもった国とテーマを決め、自身ができることを考えました。Fさんは、ジャマイカのスラム街について調べ、「いかに日本が恵まれているか、に気付かされた。毎日の食事に感謝したい。」と自覚をもちました。Gさんは、インドネシアのゴミ問題や貧困率を調べ、「これから募金をしたり、他の人に伝えたりしたい」と発表しました。Hさんは地球温暖化とツバルの海面上昇を調べ、「ゴミひろいをする、ゴミを分別しリサイクルをする等、二酸化炭素を出さないようにする行動を取りたい」と決意しました。

劇作家で新劇の創設者の一人、岸田國士は「一人では何もできぬ。だが、まず誰かが始めなければならぬ。」と発言しています。イギリスの哲学者ジョン・ロックは「人のとる行動は、その人の考え方を最も的確に表明するものである。」という名言を残しています。

子どもたちは世界を知り「自分に何ができるだろうか」と考え、主体的に行動しようとしています。その態度は、生涯を通して貫かれるはずで、「世の中を少しでも良くしたい」と社会参画への意欲をもち行動する人は、将来きっと人から信頼され、社会性ある人に育っていくことでしょう。